

議会報告会の開催のねらい

議会報告会は、議員が6つの班に分かれ、毎年11月に、地区まちづくりセンターと市役所で開催し、任期4年をかけて全ての地区で開催しました。

普段の生活では、議会や議員の活動にじみのない方も多いと思います。

そのため、議会としては、多くの市民の皆様様に議会を身近に感じていただけるよう、議員が地区に伺い、お話しさせていただいています。



富士南まちづくりセンターでの様子

報告会の概要

1. 富士市議会の概要
 - ・議員の定数（32人）、議長、副議長、各会派の紹介、本会議や委員会の役割
2. 議員の役割と議会基本条例
 - ・議員提案による条例制定
 - ・まちづくりセンターでの証明書発行を廃止する条例改正案の否決
 - ・議会報告会、議会モニター、政策討論会などの基本条例に基づく取り組み
3. 平成29年度の決算事業評価

※前号で内容を掲載
4. 質疑・意見等

参加者の皆様から伺った御意見・御要望等は、正副議長と各班長で意見集約し、市長に報告書として提出しました。

参加者の御意見（抜粋）

議会報告会の内容・進め方

中核市移行の検討のようなトピックも取り上げてほしい。

現在のようないい議員から説明を受けるやり方よりも、参加者と議員が話し合えるような形式で行ってほしい。

平成29年度決算 事業評価

紙のアートミュージアム事業は厳しい評価だったが、それにより、文化の流れがとまることがないようにしてほしい。また今後も進めるなら、もっと市民の意見を取り入れてもらいたい。

中心市街地活性化事業は、人口がふえていない状況なので、維持していくべきだと思う。

中核市移行

中核市に移行した場合、1年間で約7億円の経費がかかると思うが、これからは子どもを大切に、子育て施策にそのお金を使ったらいい。

約7億円余のお金を使うなら、産業廃棄物対策に使うほうがいい。不法投棄も心配です。中核市に移行するとならいつするのか。市の職員の考えはどうか。市民の半分以上が反対したら、移行しないほうがいいのではないかと。

参加者

インタビュー

議会報告会は、広報ふじや議会だより等で開催していることを知り、前回から参加しています。今回で2回目になります。参加した動機は、僕は富士市に住んでいるので、聞いたほうがいいと思ったからです。議員さんからの報告内容はわかりやすかったです。



稲葉海斗さん（高校1年）

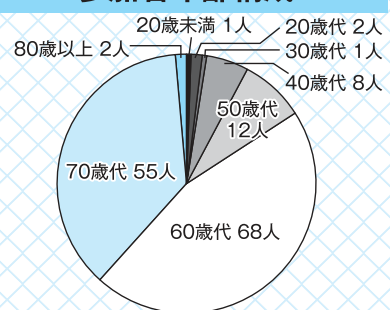
報告会を毎年、11月に開催していますが、新年度の予算が審議される2月定例会の報告も聞きたいので、5月頃にも開催してほしいのではないかと思いました。

参加者アンケート集計結果（参加総数 153人）

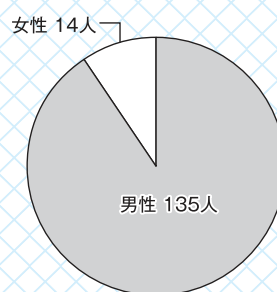
今年度は、総勢153人の方に御参加いただきました。参加いただいた方のアンケート結果は以下のグラフのとおりです。

このグラフを見ますと、参加者は60歳代と70歳代の高齢者が8割以上を占めており、また性別も男性が9割以上となっています。このことから、若い世代や女性に多く参加していただけるような内容や開催方法などが今後の課題と考えられます。また、議会情報の取得状況ですが、参加された多くの方に議会だよりをごらんいただいておりますが、本会議等への傍聴やウェブサイトでの議会中継の閲覧が少ないことが明らかになりました。この点についても今後、改善に取り組んでまいります。

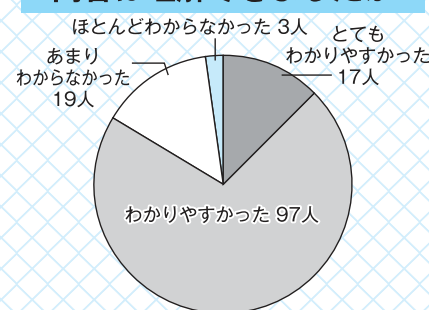
参加者年齢構成



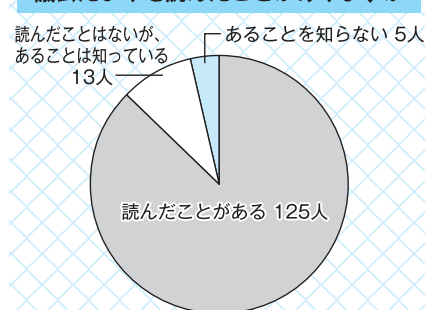
性別



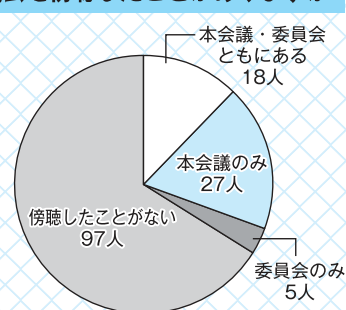
内容は理解できましたか



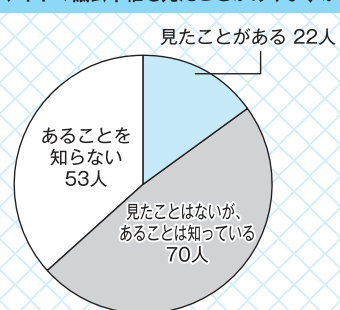
議会だよりを読んだことがありますか



市議会を傍聴したことがありますか



ウェブサイトの議会中継を見たことがありますか



富士市立高校生を対象に

議会報告会とグループディスカッションを開催

12月17日、富士市立高等学校にて行いました。



議員から決算審査・事業評価などを報告

議会報告会は同校総合探究科の授業の一環として開催され、10人の議員が参加し、9月定例会の決算審査・事業評価などを報告しました。

また、報告終了後には生徒と議員がグループに分かれ、今回、議会が評価した中心市街地活性化支援事業と紙のアートミュージアム事業について、生徒から、どのように改善すれば、成果を上げられるかという提案を高校生ならではの視点で発表してもらいました。これを受け、議員がさまざま

高校生の改善案（一例）

- ・中心市街地活性化支援事業
- ・空き店舗を活用して、買ったものを食べられる休憩スペースをつくる（自由に勉強や読書ができる場所の創出）
- ・船橋市で開催実績があり、商店街の人たちとリアルにふれ合うイベント「お店人生ゲーム」を開催する。

紙のアートミュージアム事業

人気ユーチューバーと連携し、紙の作品をつくってもらって、それをミュージアムに展示して、見に来てもらうように発信する。

子ども向けに紙作品をつくる体験なども盛り込み、見るだけではない楽しみをつくる。



高校生と議員のグループディスカッション